

平成29年度

第2回大分県教育委員会 議事録

日 時 平成29年4月18日(火)
開会13時35分 閉会14時57分

場 所 教育委員室

平成 29 年度
第 2 回大分県教育委員会

【議 事】

- (1) 議 案
 - 第 1 号議案 大分県社会教育委員の委嘱について

- (2) 報 告
 - ①平成 29 年度県立高等学校入学者選抜結果について
 - ②平成 29 年度県立特別支援学校高等部・専攻科入学者選考結果について
 - ③平成 28 年度県立特別支援学校高等部卒業者の一般就労率について
 - ④英語教育実施状況調査報告及び留学ガイドについて

- (3) 協 議
 - ①平成 30 年度（平成 29 年度実施）教員採用試験実施要項（案）について
 - ②平成 30 年度（平成 29 年度実施）民間人校長採用選考（案）について
 - ③平成 29 年度海事職（二等機関士、機関員）採用選考（案）について

- (4) その他

【内 容】

1 出席者

委 員	教育長	工 藤 利 明
	委員	林 浩 昭
	委員	岩 崎 哲 朗
	委員	松 田 順 子
	委員	首 藤 照 美
	委員	高 橋 幹 雄

欠席委員なし

事務局	理事兼教育次長	宮 迫 敏 郎
	教育次長	岩 武 茂 代
	教育次長	木 津 博 文
	参事監兼教育財務課長	森 崎 純 次
	参事監兼学校安全・安心支援課長	宗 岡 功
	参事監兼特別支援教育課長	後 藤 みゆき
	参事監兼文化課長	佐 藤 晃 洋
	教育改革・企画課長	能 見 駿一郎
	教育人事課長	法華津 敏 郎
	福利課長	中 村 均 子
	義務教育課長	米 持 武 彦
	高校教育課長	姫 野 秀 樹
	社会教育課長	阿 南 典 久
	人権・同和教育課長	樋 口 哲 司
	体育保健課長	井 上 倫 明
	屋内スポーツ施設建設推進室長	山 上 啓 輔
	教育改革・企画課主幹	下 鶴 直 哉
	教育改革・企画課主査	三 浦 晃 史

2 傍聴人

4 名

開会・点呼

(工藤教育長)

それでは、委員の出席確認をいたします。
本日は、全委員が出席です。

ただいまから平成29年度 第2回教育委員会会議を開きます。

署名委員指名

(工藤教育長)

本日の議事録の署名委員でございますが、松田委員にお願いしたいと思っております。

会期の決定

(工藤教育長)

本日の教育委員会会議はお手元の次第のとおりです。
会議の終了は15時00分を予定しています。
よろしく申し上げます。

議 事

(工藤教育長)

はじめに、会議は原則として公開することとなっておりますが、会議を公開しないことについてお諮りします。

第1号議案及び協議の①、②、③は、人事に関する案件ですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定により、これを公開しないことについて、委員の皆さんにお諮りいたします。公開しないことに賛成の委員は挙手をお願いします。

(採 決)

(工藤教育長)

それでは、第1号議案及び協議の①、②、③は、非公開といたします。本日の議事進行は、はじめに公開による議事を行い、次に非公開による議事を行いますので、よろしくお願いいたします。

【報 告】

①平成29年度県立高等学校入学者選抜結果について

(工藤教育長)

それでは、報告第1号「平成29年度県立高等学校入学者選抜結果について」姫野高校教育課長から報告いたします。

(姫野高校教育課長)

報告第1号「平成29年度県立高等学校入学者選抜結果について」報告をいたします。

1ページをご覧ください。

上の表が全日制、下の表が定時制の入試結果です。29年度の結果の下に28年度の結果、その下に増減の人数を記載しています。また、項目の左から入学定員、推薦入試・連携型入試、一次入試、二次入試の順に人数をまとめています。

平成29年度の欄を横に見ていただき、入学定員が7,600人、右側から2番目の欄に記載してありますように最終合格者が7,387人でした。入学者数が合格定員に満たない欠員数が213人、欠員を生じた学校が12校ございました。次に定時制の表をご覧ください。同じく平成29年度の入学定員440名のうち、()内の数値396名は爽風館高校の秋季募集人員及び春季転編入学者試験の募集人員を除いた数になります。最終合格者数は右から2番目の欄の162名です。

続きまして、2ページをご覧ください。学校ごとの欠員数ですが、地域の高校を中心に厳しい状況がございました。ただ昨年度から実施しています地域の高校活性化支援事業の指定校11校のうち7校で欠員が減少するなど、取組の成果も出ております。今後はさらに地域や中学校との連携を強化し、定員の確保に努めてまいりたいと考えております。

続きまして、3ページをご覧ください。

学力検査結果について報告します。上の表をご覧ください。各教科の

平均点、最高点、最低点を記載しています。いずれの教科も60点満点でございます。全体の平均点が152.6点、最高点が278点、最低点が17点でございます。参考として、下に過去4年分の検査合計点の平均点を記載しておりますが、昨年度の134.8点と比較致しますと、今年度は17.8点高い結果となりました。

その下の表が教科別の学力検査点の分布状況です。特徴としては、数学・英語の1桁得点の割合が5%を超えていること。その数学・理科で50点以上を中心とした高得点の層が薄いこと。英語の点数が幅広い分布となっていることがあげられます。なお、この学力検査結果の詳しい分析はこれから行いまして、中高連携の推進に繋げていきたいと考えています。4ページは合計点の分布状況となっております。

報告は以上です。

(工藤教育長)

ただ今説明のありました報告につきまして、ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

(高橋委員)

教科別学力検査点で0点というのがいくつかありますが、これは解答を記さなかったということですか。それとも名前が未記入ということですか。

(姫野高校教育課長)

解答を記さなかったか若しくは誤答ということですか。

(松田委員)

先ほど入学者数の減少の要因を少子化と地方の学校であるためと説明されましたが、他に要因は何だと思えますか。

(姫野高校教育課長)

地元中学校の合格状況等の詳しい分析はこれから行っていきますが、成果が上がった学校については、出前授業のように中学校との連携を強化したこと、カリキュラムを見直し特色ある学校づくりに努めたこと、外部人材の活用等と考えています。

地域の高校活性化支援事業により、例えば、安心院高校や耶馬溪校も昨年度と比較すると欠員の数が半分近くに減っています。日田三隈高校は教育事務所が中心となり中高合同で進路主任や管理職の連携会議を行うなど努力したことで、欠員数が減っています。

そのような特色ある取組をさらに進めていきたいと考えています。

(松田委員)

私学と県立を比較すると、私学は必死に定員の確保に努めています。

どの先生に聞いても自分の学校の良さを堂々と中学校の先生に話せません。県立は校長と教頭は中学校を回って自分の学校の良さを伝えていますが、教員全員が必死に自分の学校の良さを伝えようとしているようには伝わってきません。是非私学や志願者が増えた学校の良さを取り入れ、真剣に取り組んでいくとよいと思います。

(林職務代理者)

4 ページの合計点が正規分布から少し偏っていますが、どれか難しい教科があったのですか。

(姫野高校教育課長)

3 ページに各教科の検査点の分布一覧を示しております。平均点は30点を目途に作問していきませんが、国語が平均点34.9点と予想より良かったこと、数学と理科の上位層である40点以上が他教科よりも薄かったことが影響していると考えます。

(林職務代理者)

先ほど、地域の高校活性化支援事業の取組の成果が表れていると言われていましたが、そうでない学校も見られます。そういう学校では新たな活性化策を行っていく必要があると思いますので、早めに議論を始めてください。

(姫野高校教育課長)

今月20日に第2期目の地域の高校活性化支援事業の審査会を行う予定です。昨年度の課題を分析した上で今年度どのような取組を行っていく必要があるかを考えていきます。

(首藤委員)

数学・英語で1桁台の得点を出さないために昨年度に比べて基礎的な問題を入れるなど配慮されたようですが、それでも1桁台の得点の生徒が5%を超えています。

中学生の学力は課題ですので、高校と中学が連携して検査結果を分析した上で授業改善も含めて改善点を検討し、その検討結果を報告してもらいたいと思います。

(姫野高校教育課長)

ご指摘のように中高でもっと連携していかなければならないと思います。そこで今年度2回協議会を行う予定です。まず7月に中高の指導主

事・地域の教科代表が集まり、学力検査の分析を基に連携協議を行うことを考えています。また11月には県下6地域に出向き、地域の中高の先生と授業改善について話し合う予定です。

(岩崎委員)

欠員が生じている学校の中には学級運営ができないような状態のところがあるのでしょうか。また、欠員が生じている学校では年度途中で編入することも可能でしょうか。それから、そのようなことも検討されますでしょうか。

(姫野高校教育課長)

入学状況がかなり厳しい学校もありますが、その学校についても次年度に向けて地域の高校活性化支援事業による取組を行っていきたいと考えてます。しかしながら、そのような学校でも学校の教育活動に支障を来している状況があるとの報告は受けていません。

なお、途中編入については、県立高校の場合は一家転住であることが条件となるので、年度途中で追加募集することは考えていません。

(高橋委員)

定員割れをした学校は二次募集でも定員割れをしたということだと思いますが、例えば商業系の学科に入学した生徒が就職だけでなく大学進学できるような進路の仕組みを作ることはことは可能ですか。

(姫野高校教育課長)

前回の教育委員会会議で報告させていただいたように、商業系の高校から大分大学に昨年の倍の14名が進学しました。就職指導だけでなく、進学指導についても専門科高校では力を入れています。特に少人数の学校では個別の指導を丁寧に行い、出口をしっかりと定めていきたいと考えています。

(高橋委員)

地方の高校は特殊なカリキュラムを作るだけでなく、普通科を1クラス作る方が就職にしても進学にしても柔軟に対応できるのではないのでしょうか。

(姫野高校教育課長)

県立高校の入学定員の総数につきましては、中学校の卒業者数及び公私の状況、進路希望等で決定していきます。例年9月に定員を策定いたしますので、いろいろな意見を勘案しながら検討していきます。

②平成29年度県立特別支援学校高等部・専攻科入学者選考結果について

(工藤教育長)

次に、報告第2号「平成29年度県立特別支援学校高等部・専攻科入学者選考結果について」後藤参事監兼特別支援教育課長から報告いたします。

(後藤参事監兼特別支援教育課長)

報告第2号「平成29年度県立特別支援学校高等部・専攻科入学者選考結果について」報告をいたします。

1ページの「1 入学者選考結果」をご覧ください。今年度の入学者選考結果をお示ししています。

特別支援学校の入学者選考では、法令に定める障がいの程度であることを志願条件としており、この条件を満たす生徒は合格とすることを基本としています。

前年度3月にそれぞれの特別支援学校で第一次・第二次の入学者選考を実施し、この表に示しましたとおり全16校で218名の生徒が合格しました。障がい種別の選考状況を見ますと、学校番号6の宇佐支援学校から16の日田支援学校までの知的障がいの学校で志願者・合格者が多く、全体の86.2%にのびります。中でも、学校番号11の新生支援学校、12の大分支援学校の志願者・合格者が他校に比べて多い状況でございます。この2校につきましては、年々高等部に在籍する生徒数が増えている状況です。

続いて、「2 特別支援学校高等部への入学者数推移」をご覧ください。この表は、過去10年間の特別支援学校高等部本科への入学者の推移をお示ししています。本年度の入学者数は216名で、前年度に比較しますと23名増となりました。10年前の平成20年度から見ますと、この10年間で入学者は1.5倍増加しています。

続いて「3 知的障がい特別支援学校高等部への入学者数推移」をご覧ください。この表は知的障がいの特別支援学校高等部11校の入学者数推移とその内訳をお示ししています。

今年度の188名の入学者の内訳ですが、特別支援学校の中学部から進学した生徒は97名であり、例年高い数字で推移しています。

中学校からの入学者について、特別支援学級から入学した生徒が82名であり、特別支援学級の在籍生徒総数の約8割が入学しています。また、通常の学級から進学した生徒は前年度より1名増加し9名となっており、中学校からの入学者は、ここ数年ゆるやかに増加しております。

特別支援学校高等部を選択する生徒が増加をしている要因といたしましては、生徒一人一人の障がい状況に応じたきめ細かな教育を行うことへの期待が高まっているためと推察しています。報告は以上です。

(工藤教育長)

ただ今説明のありました報告につきまして、ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

(松田委員)

今回の幼稚園教育要領の改訂により、外国人の子どもや特別な支援が必要である子ども等を小学校へ繋げるための項目が入りました。今後も支援を必要とする子どもの数は増えてくると思いますが、幼児期から小学校、小学校から中学校、中学校から高校というように切れ目のない繋ぎをお願いしたいと思います。

(林職務代理者)

入学定員が増えてきている状況と思いますが、施設設備の整備を確実に行ってください。

(後藤参事監兼特別支援教育課長)

本年度「第三次特別支援教育推進計画」を策定しますが、大分市内、別府市内の学校で生徒数の多い学校があるので、検討事項として挙げているところです。

(林職務代理者)

災害時の避難も含めて、ぜひ必要な整備をしてほしいと思います。

(工藤教育長)

児童生徒数が右肩上がりとなっていますので、第三次推進計画の中でしっかりと検討していきます。

③平成28年度県立特別支援学校高等部卒業者の一般就労率について

(工藤教育長)

次に、報告第3号「平成28年度県立特別支援学校高等部卒業者の一般就労率について」後藤参事監兼特別支援教育課長から報告いたします。

(後藤参事監兼特別支援教育課長)

報告第3号「平成28年度県立特別支援学校高等部卒業者の一般就労率について」報告いたします。

1ページの「資料1 卒業生全体に占める進路先別の割合」をご覧ください。この表は、県内の特別支援学校17校の卒業生全体に占める進路先の割合をお示ししております。

昨年度は、17校で計163名が卒業をいたしました。進学は3名で西南学院大学や筑波技術大学等に進学をしております。また、企業等への就職は2つ右の「就職」欄にありますように44名でございました。なお、進路先未定者は0名で卒業生全ての進路先が決定しております。

次に、左下の「資料2 知的障がい特別支援学校における一般就労率の推移」をご覧ください。

この一般就労率は、知的障がい特別支援学校卒業生全体に占める一般事業所等へ就職した生徒の割合となっております。

昨年度の一般就労率は24.8%でしたが、今年度は29.1%となり、前年度より4.3%上昇しております。就労者数は41名で前年度よりも4名増えております。これは、子ども達一人一人の就労意欲が向上してきたこと、その進路希望に応じた進路先を開拓することができたこと等の成果であると考えております。

次に、右下の「資料3 知的障がい特別支援学校における希望就労率の推移」をご覧ください。

この表は、知的障がい特別支援学校において一般就労を希望した生徒のうち、どれくらいの生徒が就労を達成できたかを示すグラフです。

一般就労を希望した生徒の就労率は年々向上しており、昨年度は85.4%でした。知的障がい特別支援学校11校のうち8校で希望就労率が80%を超えるなど良い結果が出てますが、この数字に満足することなく、今後も各学校における進路指導に力を入れていきたいと考えております。報告は以上です。

(工藤教育長)

ただ今説明のありました報告につきまして、ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

(林職務代理者)

「資料3 知的障がい特別支援学校における希望就労率の推移」についてですが、生徒はどのような職種を希望しているのでしょうか。また、その希望を達成できるよう就労先の開拓を進めていますか。

(後藤参事監兼特別支援教育課長)

昨年度はドラッグストア等の小売業や製造業等に一般就労しております。また、就労先の開拓については、就労支援アドバイザーを配置し、取組を進めているところです。その結果、新規の受入先も増えてきている状況です。

(林職務代理者)

生徒が希望する就労先もそのようなところが多いのでしょうか。

(後藤参事監兼特別支援教育課長)

特別支援学校では中学部3年、若しくは高等部1年と早い段階から実習を重ねておりますので、生徒も早くからこの会社で働きたいという気持ちを持つようになっていきます。また、企業等も生徒の実習の様子を通して採用に繋げている場合が増えてきております。

(高橋委員)

就労した後に何か問題となった事例はありますか。

(後藤参事監兼特別支援教育課長)

働くことについては問題は出ておりませんが、お金の使い方、休憩時間の過ごし方、他の従業員との人間関係などで問題が生じたという報告をいただいています。

(高橋委員)

それらの問題に対して企業に支援する仕組みはありますか。

(後藤参事監兼特別支援教育課長)

企業の人事担当と打ち合わせを行い、実習の段階で従業員の方から支援いただけるようお願いしているところです。一方、就労しないと分からない部分もありますので、そういう問題が発生する都度、企業から連絡をいただき教員や就労支援アドバイザーが対応している状況です。

また、特別支援学校の卒業生も卒業後3年間を追指導期間として進路指導主任等が支援しております。

(岩崎委員)

就労率が向上した要因の一つとして、各地域で社会福祉施設等の企業との連携が密になってきていることがあると思います。特別支援学校と企業との連携強化の取組を更に進めていただき一般就労率が全国レベルに追いつけるよう取り組んでいただきたいと思います。

(工藤教育長)

一般企業も人手が足りない状況なので、仕事の内容を知的障がいがあってもできる部分とできない部分に仕分けしていくことが望ましいという意見が全国の教育長会議で出ていました。そのような取組を通して就労率の向上を図っていききたいと思います。

④英語教育実施状況調査報告及び留学ガイドについて

(工藤教育長)

次に、報告第4号「英語教育実施状況調査報告及び留学ガイドについて」姫野高校教育課長から報告いたします。

(姫野高校教育課長)

報告第4号「英語教育実施状況調査報告及び留学ガイドについて」報告いたします。

1ページをご覧ください。この調査は毎年文部科学省が、全国の公立小中学校、高等学校における英語教育の状況について調査したものです。

まず、求められる英語力を有する生徒の割合は高等学校は42.8%で全国5位、中学校は36.1%で全国15位であり、九州ではいずれも1位です。

次に、教員の英語力ですが、高等学校教員が66.1%で全国20位、中学校教員が35%で全国第11位となっています。本県ではグローバル人材育成推進プランに沿って取組を進めており、その成果が現れていると考えております。しかしながら、いずれの数値も国が掲げる目標には達していない状況ですので、今後は小中高合同の英語授業改善研修やイングリッシュキャンプ等を通して目標達成に向けて取組を進めてまいります。

また、留学する生徒を支援する目的で「留学ガイド」を作成いたしました。今後、各高等学校や市町村教育委員会等に配布するとともに5月14日に開催する本年度第1回の中学校・高校留学フェアの参加者にも本ガイドを配布し、海外への留学機運の醸成を図っていきます。

報告は以上です。

(工藤教育長)

ただ今説明のありました報告につきまして、ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

(林職務代理者)

英語教育実施状況調査の結果は公立だけでなく、私立を含んだ数値ですか。

(姫野高校教育課長)

公立のみの数値です。

(林職務代理者)

長期留学する高校生はどのくらいいますか。

(姫野高校教育課長)

長期留学した高校生は昨年9名です。そのうち、県が支援した生徒は4名です。

(林職務代理者)

1年間留学する場合、単位として認められるのでしょうか。若しくは1年追加して高等学校に行くことになるのでしょうか。

(姫野高校教育課長)

どちらも可能です。留学ガイドの裏面のQ&Aに記載してますように、単位取得については、生徒の状況や希望により、もう1年同じ学年に残ることや単位を認定してもらい次学年で大学進学等を目指すことが可能です。

(林職務代理者)

生徒によっては単位取得が可能でも、もう1年同じ学年で学びたい場合はそのような選択肢もあるのですか。

(姫野高校教育課長)

その通りです。

(松田委員)

大分県は留学生の割合も高く、英検の取得状況などを見ても生徒の状況については素晴らしいと思いますが、英語担当教員の指導力、英語力の向上を図るため、教員養成系の大学と連携し大学時代に留学を後押しする取組を行っていただきたいと思います。

就職してから英語力を向上させるのではなく、大学時代に留学をするべきだと思います。高校生についても留学から帰ってきた後の単位取得の優遇や他の生徒と同じ学年に入れるようにすれば、もっと活性化すると思います。

(高橋委員)

長期留学支援として県から4名に補助を行っていますが、成果を教えてください。

(姫野高校教育課長)

数値としては持ち合わせておりませんが、留学フェアやグローバル人材育成セミナーの取組を通して学習意欲が上がった生徒や英語をコミュニケーションの手段として学ぶ生徒が現れてきており、顕著な成果が出ていると認識しています。

(高橋委員)

教員の英語力について、文法はできてもスピーキングはできない教員がいると思います。例えば、県が教員に対して短期留学や期間限定で留学を支援する施策など検討されていますか。

(姫野高校教育課長)

ウェブ会議やインターネット等を使って外国の高等学校と継続的に英語を使うことにより教員のスキルアップを図る取組や教員が現地に行き英語を学ぶことができるような取組を考えていきたいと思います。

(工藤教育長)

それでは、先に非公開と決定しました議事を行いますが、その前に、公開でその他、何かございませんか。

では、非公開の議事を行いますので、関係課長のみ在室とし、その他の課室長及び傍聴人は退出してください。

3課（教育改革・企画課、教育人事課、社会教育課）在室

【議案】

第1号議案 大分県社会教育委員の委嘱について

(工藤教育長)

それでは、第1号議案「大分県社会教育委員の委嘱について」提案しますので、阿南社会教育課長から説明いたします。

(説明)

(工藤教育長)

ただ今、説明のありました議案について審議を行います。ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

(質疑・意見等)

(工藤教育長)

それでは、第1号議案の承認についてお諮りいたします。第1号議案について承認される委員は挙手をお願いします。

(採 決)

(工藤教育長)

第1号議案については、提案どおり承認します。

【協 議】

①平成30年度（平成29年度実施）教員採用試験実施要項（案）について

(工藤教育長)

それでは、協議の①「平成30年度（平成29年度実施）教員採用試験実施要項（案）について」法華津教育人事課長から説明いたします。

(説 明)

(工藤教育長)

ご質問・ご意見のある方はお願いします。

(質疑・意見等)

(工藤教育長)

それでは、今回の協議の結果を踏まえ、準備を進めてまいります。

②平成30年度（平成29年度実施）民間人校長採用選考（案）について

(工藤教育長)

次に、協議の②「平成30年度（平成29年度実施）民間人校長採用選考（案）について」法華津教育人事課長から説明いたします。

(説 明)

(工藤教育長)

ご質問・ご意見のある方はお願いします。

(質疑・意見等)

(工藤教育長)

それでは、今回の協議の結果を踏まえ、準備を進めてまいります。

③平成29年度海事職（二等機関士、機関員）採用選考（案）について

（工藤教育長）

次に、協議の③「平成29年度海事職（二等機関士、機関員）採用選考（案）について」法華津教育人事課長から説明いたします。

（説明）

（工藤教育長）

ご質問・ご意見のある方はお願いします。

（質疑・意見等）

（工藤教育長）

それでは、今回の協議の結果を踏まえ、準備を進めてまいります。

（工藤教育長）

それでは、最後にその他、何かございますか。

ないようですので、これで平成29年度第2回教育委員会会議を閉会します。

お疲れ様でした。